

◆◇◆風の色 その2◆◇◆

春の風は やわらかいピンク  のおでこに ロづけしたから

- 「風の色」の授業のようすをもう少し続けます。  
子どもたちは春の連、かくされた言葉を考えています。  
考えの多くは「桜」。ある保護者の方は「恋人」。なぜその言葉？  
わけを知りたい気持ちがそれぞれに高まっています。  
「〇〇さん、なぜ恋人、なのですか」「それは…おでこにロづけって書いてあるから…」  
子どもたちはもう大さわぎ。発言された方は真っ赤。  
他の保護者の方はニコニコ（ニヤニヤ?）。
- さわぎが少しおさまったところで、  
「では桜っていう子どもたち、立ってごらん。〇〇さんから順に理由を教えてください」  
「桜の理由は、春の風って書いてあって、桜は春に咲くからです」  
「付け加えます。やわらかいピンクと書かれていて桜の花はピンク色だから風が桜にあたってピンクになったんだと思います」  
子どもたちのわけに保護者の皆さんもうんうんとうなづいています。  
それでも恋人、という保護者の方は引き下がりません。  
「先生、いいですか。桜にはおでこがありません。だから違うと思います」
- 再びざわつきはじめた教室。  
「どちらもなるほど、ですね。ヒントはたくさんありましたよ。目を付ける言葉。  
三つありました。一つは季節。春の風だから、かくれているのは春に関係あるもの。  
二つは色。やわらかいピンクとあるからピンク色をしているもの。  
三つはかたち。それは、おでこがあるんだって。さあ、何でしょうね」  
  
…こんなふうにして、言葉を手がかりにしながら想像を広げる。  
そして見つけた応えを説明する。  
教師になって十年が過ぎ、授業参観日の緊張もほとんどなくなったころの思い出です。